

学級担任との TTによる授業改善と 体力向上の取組

やなぎまち
北海道音更町立柳町小学校

全校児童数	345名(男子182名 女子163名)		
全クラス数	17	教職員数	25名(内体育専科1名)
地域スポーツ活動への参加(スポーツ少年団等)	有		
地域の外部指導者の活用(年間延べ人数)	10人		

取組時の課題と目的

Plan

1 取組時の課題

児童は、運動に積極的に取り組んでいるが、体力・運動能力は高いとは言えない状況である。また、学級担任が体育の指導に対して不安を抱いたり、専門性を生かした指導が十分に行われていない状況も見られていた。

2 取組の目的

- ①新体力テストの結果を踏まえ、児童に自分の体についての興味・関心を高めることや生活習慣を見直す機会をもたせるとともに、外部指導者の活用を図り、学校全体の体力向上に向けた取組を充実させる。
- ②学級担任とのTTによる指導や専門性を生かし、児童に運動する楽しさを実感できるような指導により、体力づくりの促進や体育授業の改善を図る。
- ③運動や外遊びに気軽に取り組めるような環境づくりを進めるとともに、学級担任の体育の指導力の向上を図る。

取組の内容

D

1 新体力テストの実施と体力向上の取組の重点化

(1) 自分の体力の状況や変容を知る機会の確保

- ①新体力テストの結果を踏まえ、児童自ら自分の体力の状況を理解するとともに、自分の運動習慣をふり返し、運動量の確保に努めている。
- ②課題となる種目を再計測し、自分の体力の向上を実感できるようにし、今後の目標を考える。

(2) 重点化を図った体力向上の取組

体力向上の重点を「すばやさ」と設定し、体育専科教員が中心となって体力向上の取組を推進している。

(3) 保護者との連携

体力向上の重点を児童と保護者へ周知することにより、家庭での取組を奨励し、運動の日常化を図っている。

2 専門性を生かした体育授業の充実

(1) 運動量の確保

主運動につながる補強運動や運動遊びを導入時に行い、児童に十分な運動量を確保する。

(2) 学級担任とのTT

- ①体育専科教員は、体力向上の全体計画や、専門性を生かした指導計画を作成するとともに、全学級の担任とTTで指導を行い、個に応じたきめ細かな指導を行っている。

- ②能力差に応じた支援や少人数グループでの指導をTTで行うことで、個々の課題解決に向けて取り組ませる時間を長くとれるとともに、全ての児童が運動する楽しさを味わえるようにしている。

(3) 道具や場の工夫

- ①体育専科教員は、本年度の体力向上の重点を踏まえ、全学年の陸上運動系の単元において、道具や場を工夫し、走る能力を高める指導を行っている。
- ②ハードル走では、コースとしてグラウンドに標識ロープを張り、インターバルの位置にテープを固定する等して、用具等の準備の時間を短縮し、運動時間を確保している。また、フープや踏切板を活用し、正しい動きを体感できるようにしている。

(4) 外部指導者の活用

大学研究機関等の地域の専門的な指導力を有する方と連携し、新体力テストの実施や鉄棒、マット運動等、専門的な技術指導の支援を受けている。

●工夫したこと

- ①毎時間の体育授業の運動量を設定し、主運動だけでなく、つながる動きも含めて、運動量を確保した。
- ②体育専科教員が学級担任と打ち合せを行う際に、指導内容や指導方法についての資料等を作成し、指導のポイントの共有化を図った。
- ③体育通信を発行し、体育の授業の説明や、学校以外で取り組める運動の紹介、望ましい生活習慣の在り方を児童や保護者に知らせた。

取組の成果

Check

- ①体力合計点は、平成21年度の男子が46.7点、女子が43.9点に比べて、本年度は男子で8.1点、女子で12.1点上回っている。総合評価のE値の割合においても、平成21年度が男子24%、女子は10.3%であり、本年度は男女ともにE値が減少している。
- ②1週間の総運動時間が60分未満の男女は、この4年間で16.6%から1.8%へ減少し、運動時間数は平均で約350分増加した。

今後の課題

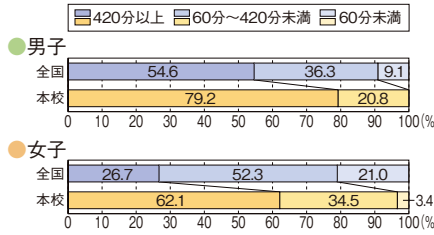
Action

- ①町教育研究所や中学校と連携し、授業研究や実践研修等を実施する等、自校教員の指導力の向上を一層図っていく必要があると考える。
- ②仲間と協力しながら運動に取り組むことができるよう、体育授業において、友達や教員等とかわる場面を多く設定する必要があると考える。

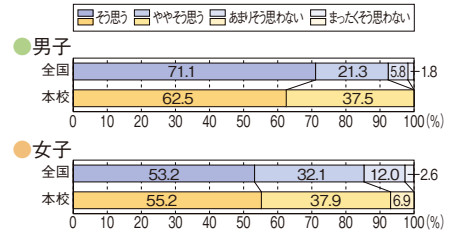
●体力合計点と運動時間

	男子	女子
体力合計点(点)	54.8	56.0
(5段階)総平均	A	17.4
	B	17.4
	D	26.1
	E	4.3
	AB-DE	4.4
1週間の総運動時間(分)	817.3	605.2
60分未満の割合(%)	0.0	3.4

●1週間の総運動時間の分布



●【質問15】体育の授業は楽しい



重点化を図った体力向上の取組



新体力テストの結果

- ・学校としての課題種目「50m走」「反復横とび」
- ・必要な力「すばやさ」「力強さ」「タイミングのよさ」

体育の指導計画

- ・低学年「走跳の運動遊び」
- ・中学年「小型ハードル」
- ・高学年「ハードル走」

専門性を生かした体育の授業



フープを使ってリズムカルな走りを練習

体育専科教員や外部指導者の活用



・TTによるきめ細かい指導
・外部指導者による指導の支援

50m走の再測定

全校平均で1.73秒もタイムが速くなった。特に、2年生では2.8秒も速くなり、走り方もよくなった。

児童への結果お知らせ生活のふり返し

保護者との連携「体育通信」の発行

体力向上の重点「すばやさ」
～学級担任とのTT～

新体力テストの結果について

1学期に行った新体力テストの個人結果はお渡ししましたが、今回は櫻町小学校全体の傾向と、それをもとに2学期からどのように取り組んでいくかについてお知らせします。まず、学校全体としての傾向です。

50m走	△	握力	○
20mシャトルラン	○	上体起こし	○
立ち幅跳び	◎	長座体前屈	◎
ボール投げ	○	反復横とび	△

「立ち幅跳び」「長座体前屈」はほとんどの学年で全国平均より上回っています。「シャトルラン」「ボール投げ」「握力」「上体起こし」は約半分が上回っています。「50m走」「反復横とび」は多くの学年が下回っています。

このような結果になりました。全校として、ほとんどの種目で全国平均を上回る結果となりましたが、「50m走」「反復横とび」が低いという傾向があります。この2つの種目、「50m走」は走能力だけでなく、スピード（すばやく移動する能力）、「反復横とび」は敏捷性（すばやく動作を繰り返す能力）が必要になります。この2つに共通しているのは「すばやく」ということです。

今週で全ての学年の水泳記録会を行いましたので、水泳の授業もほぼ終わりとなります。来週からの体育では、先の2種目に共通する「すばやさ」についての動きや遊びを取り入れていきます。学習発表会前の特別時間まで約4週間あります。この期間で、低学年は「走・跳の運動遊び」、中学年は「走・跳の運動（幅跳び、高跳び）」、高学年は「陸上運動（走り幅跳び、走り高跳び）」を行います。幅跳びや高跳びは、助走の速さが記録（高さ、距離）に結びつきます。走ったり、跳んだりする授業の中で、「すばやさ」を意識して取り組んでいきます。そして、4週間後の授業で「50m走」の計測をし、6月の記録からどのように変化がみられたか確かめてみようと思います。

チャレンジしてみませんか？
授業で取り組む「すばやさ」を、学校以外でも取り組み、「自分の体力がどう高まるか」を確認しよう。

運動量の確保 道具や場の工夫

- ・ラインを使った走り
- ・振り上げ足の目標物



児童の自信、意欲
「家でも取り組んだので速くなったよ」
「速く走るコツがわかってきたぞ」